

佐伯史談

第六十一号

「御土史研究」誌
通算第八十三号

昭和四十五年二月二十日

佐伯史談会

事務局 佐伯市大字稻垣宮護護寺 羽柴方

理想

偶 感

佐伯史談会
会長 高木 嘉吉

昭和四十五年 日本が経済成長は世界の首位に立ち、物資は巷にあふれ、国民それぞれに平和の中に生活を楽しんでいる。

平和はよいことである。平和は人々に回顧の余裕を与え、温古知新の郷土史研究の熱が各地に高まつてゐる。これは嬉しいことである。我々も思いを新にして、此の佳い年を有意義に過したい。

エブリーシング イン サムシング を研究踏査のメモットーとして、同好の士相集い、郷土史研究の旅を続け、今日に至った。それはそれなりに多大の成果を収め、会員の一人一人が深い研究の分野を持つことになり、更に会も充実発展して、社会的にも重視されることになった。これも嬉しいことである。

ここで私は一つの提言をしたい。——言わずもがなの老練心かも知れないが——それは史書をひもとくことで

ある。日本史、東洋史、西洋史、世界史どこからでもよい。余暇にひもといて古来東西の各民族の盛衰興亡と、文化発展の跡をさぐりたい。そして我々の郷土史研究をそれと関連して眺めることをしたい。例えば仏像は、程度、中央亞細亞、中國、朝鮮と経過して日本に伝来したものである。日本の仏像はそれ等の関連を考へれば其の研究は出来ない。織物についても同様なことが言える。

史書を読むことは汝かようを楽しみぬもある。モンゴルが世界を制覇したくだりは、何といつても壮快である。蒙古から中央亞細亞、ヨーロッパの大草原をモンゴルの鉄騎が怒濤の進撃とする場面を想像して血をわとらせる。これは手のつからない、若返り法である。読書も亦嬉しいことである。

(おわり)

本号内容

- 理想 偶 感 (高木嘉吉)……………一
- 研究 毛利氏の女系について(佐藤豊)……………二
- 研究 佛土の歴史を標る(吉森田木)……………三
- 研究 佐伯茶と佐伯院 (佐伯茶と佐伯院)……………四
- 研究 佐伯寺堂(高木小波)の沿革……………五
- 研究 佐伯の羽風(山内武雄)……………六
- 研究 佐伯と四本町(山本保)……………七
- 研究 佐伯の遺跡を訪ねて(高木)……………八
- 研究 赤木村大庄屋(文書の周辺)(羽柴)……………九
- 研究 赤木村大庄屋(文書の周辺)(羽柴)……………一〇
- 研究会の情報……………一一
- 研究会案内、寄附受付、その他……………一二